



神奈川県事業本部 123 運動ニュース NO3

第24次123運動
2012年1月25日
発行 神奈川県事業本部
(担当 千葉 宣明)

川崎エリア、県央エリアにつづき、1月22日湘南三浦エリアの123集会在日本大学湘南キャンパスで「地域の力で自給自足のまちづくり」をテーマに行なわれました。湘南三浦エリアは今年、湘南事業所が藤沢市高齢者生きがい対応型デイサービス「ご縁」を開所し、鎌倉事業所には基金訓練修了生が立ち上げた「デイサービスまどい」が開所し、そして、第二児童デイサービスたんぽぽとして「おひさま」が3月に開所予定です。来年度は8事業所、22現場でのスタートになります。

あかりで生活総合支援事業、子育て支援事業を行い、長後あかりで商店街活性化事業に乗り出すなど、既存事業所が地域福祉事業に挑戦し、地域福祉事業所が生活総合支援事業や子育て支援事業に挑戦する、事業所の複合化、総合化が進んでいます。また、事業所の組合員だけでなく、受講生、利用者、商店街、地域、行政と一緒に地域課題を共有し解決に向けて取り組んでいるのが、神奈川県事業本部また湘南三浦エリアの特徴かと思えます。今、湘南三浦エリア1つひとつの各事業所が目的を持って活動していることがうかがえます。

当日は、組合員78名にかながわフロンティア・ネットワーク、茅ヶ崎市老人福祉センターふれあい交流会運営委員、たんぽぽ利用者親子等、外部11名が参加し総勢89名の集会になりました。本部の山田専務補佐があいさつでFEC自給圏の重要性を説明され、講演では



集会のようす

「いまなぜ“自給自足”食と農を考える」をテーマに、安村碩之氏(かながわフロンティア・ネットワーク会長・元日本大学教授)が食の問題



山田専務補佐、安村先生、川手先生、木村さん報告

点を洗い出す内容の講演をまた、特別報告として、「菜の花プロジェクト」について全国での取り組み川手督也氏(日本大学生物資源科学部 准教授)に報告してもらいました。そして、各事業所より1年の総括と123行動計画を報告。長後あかりの報告には、日大生といっしょに取組んだ「長後

地域食アンケート」に「長後(高倉)地域における高齢者食生活調査と今後の課題」をタイトルに日本大学学生である木村香央里さんがいっしょに報告され、最後に、高成田本部長より「雇用、FEC自給圏に対して、協同労働が解決できる報告でした。湘南三浦エリアより新しい動きを発信してほしい。」とのまとめがありました。感想では「各事業所で新しい事業が次々と始まっていくことを知って、みなさんの力強さを感じました。」「湘南三浦エリアで集まることで、より他事業所が近く感じ、協力しやすくなる。」などあり、エリアがまとまりを持てた集会に思いました。



各現場から報告

神奈川県事業本部はエリアごとの123集会になり、第3コーナーを駆け抜けラスト横浜エリアの123集会を迎えます。

